

プロフィール 講演者・パネリスト

(アルファベット順)

De Jesus, Edilberto (エディルベルト・デ ジーザス) アジア経営大学院 名誉教授・元学長、フィリピン



アジア経営大学院にて農村開発マネージメントプログラムを担当していたが、1987年コラソン・アキノ大統領よりピース・コミッショナー代理に任命される。1988年～1992年まで、大統領補佐官としてとして農村開発プロジェクトに携わる。その後、アジア経営大学院に戻り、学部長代理として政策センターを設立。1995年～2002年ファーイースタン大学、2008年～2009年コルディラス大学、2009年～2012年アジア経営大学院にて学長を務める。また、これまで教育省長官、フィリピン単科大学・総合大学協会会長、私立学校協会の調整審議会役員、東南アジア文部大臣機構の会長等の要職を兼務。現在は、アジア経営大学院の名誉教授を務めながら、フィリピン教育産業諮問委員会、アジア欧州会合(ASEM)によって設立されたアジア欧州教育拠点諮問委員会、政府高等教育委員会にて国際化のための作業部会に従事している。

Geisel, Sofie (ソフィー・ガイゼル) ドイツ商工会議所 企業ネットワーク「サクセスファクター:ファミリー」リーダー

ドイツ、チュービンゲンとスイス、ジュネーブにて経済学、政治学、地理学、ロマンス語を学ぶ。卒業後、チュービンゲン大学にてリサーチ・アシスタント、ローランド・ベルガー社はじめとした様々な企業にてコンサルタント業務を担当。同時に、非営利のヘルティナー財団が実施する「仕事と家庭の監査」の監査役トレーニングを受け、資格取得。2007年より、ドイツ連邦家族省、ドイツ商工会議所の共同プロジェクトである「サクセスファクター:ファミリー」のリーダー。「サクセスファクター:ファミリー」は、5500社以上が参加する仕事・家庭・私生活の両立を目指すドイツ企業の最大のネットワーキングであり、家族に優しい職場づくりを目指す雇用者のために重要な役割を果たしている。2013年より、ドイツ商工会議所サービス業務代理人を務める。三児の母。ベルリン在住。



玄田有史 (げんだ ゆうじ) 東京大学社会科学研究所教授



1964年生まれ。島根県松江市出身。88年東京大学経済学部卒業、92年同大学院経済学研究科博士課程退学。ハーバード大学、オックスフォード大学各客員研究員、学習院大学教授を経て、東京大学社会科学研究所教授、博士(経済学)。主な著作に『仕事のなかの曖昧な不安—揺れる若年の現在』(中央公論新社、2001年、日経・経済図書文化賞、サントリー学芸賞受賞、中公文庫、2005年)、『ジョブ・クリエイション』(日本経済新聞社、2004年、エコノミスト賞、労働関係図書優秀賞受賞)、『希望のつくり方』(岩波新書、2010年)、『孤立無業(SNEP)』(日本経済新聞出版社、2013年)など。

原ひろみ (はら ひろみ) 日本女子大学家政学部家政経済学科准教授

東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、博士(経済学)。労働経済学。独立行政法人労働政策研究・研修機構研究員、副主任研究員を経て、現職。主な著作に『働くことと学ぶこと—能力開発と人材活用』(共著、ミネルヴァ書房、2010年)、『非正規雇用のキャリア形成—職業能力評価社会をめざして』(共編著、勁草書房、2011年)、『職業能力開発の経済分析』(勁草書房、2014年)など。



Hui, Weng Tat (ウェン=タット・ファイ) シンガポール国立大学公共政策大学院教授



専門分野は、グローバル化が労働市場に与える影響、移民、教育、高齢化、定年制度の経済問題、シンガポールの労働市場政策。シンガポール国立大学経営学部での教職を経て、2004年より公共政策大学で教鞭を執る。現在は、大学院課程で、経済学、公共政策、公共政策研究・評価、労働市場政策問題を教えている。国際労働、公共経済分野のジャーナルに執筆。また、シンガポール労働省、人口・人材局、国際労働機関(ILO)、国際連合貿易開発会議(UNCTAD)のコンサルタントも務めており、賃金と人材に関連する問題で、シンガポール政府の委員会のメンバーとしても活躍している。

Korte, Karl-Rudolf (カール=ルドルフ・コルテ) デュイスブルク・エッセン大学教授、ドイツ

マインツ大学とチューリンゲン大学で、政治学、ドイツ学、教育学を学ぶ。1983年、ヨハネス・グーテンベルグ・マインツ大学卒業。1988年、同大学で、博士号(政治学)を取得。1991年には、フェローとしてハーバード大学(ヨーロッパ研究センター)に滞在。1997年に、ルートヴィヒ・マクシミリアン・ミュンヘン大学、社会科学学科にて大学教授資格を取得。トリアー、ケルン、ミュンヘン、デュイスブルク大学で准教授として教鞭を執った後、2003年より、デュイスブルク・エッセン大学の政治学教授職。専門は、ドイツ連邦共和国の政治システムと国家現代論。2006年よりNRW スクール・オブ・ガバナンスの学長。2010年よりデュイスブルク・エッセン大学人文学部学部長。ドイツ政府、政党、選挙に関連した書籍を多数出版。最新の出版物では、2013年のドイツ連邦議会選挙と比較政治学を取り扱っている。



工藤啓 (くどう けい) 認定特定非営利活動法人 育て上げネット理事長



2001年、若年就労支援を専門とする任意団体「育て上げネット」を設立、2004年にNPO法人化。成城大学中退。米国ベルビューカレッジ卒業、帰国後起業。著書に『NPOで働く—社会の課題を解決する仕事』(東洋経済新報社)、『大卒だって無職になる—“はたらく”につまずく若者たち』(エンターブレイン)など。金沢工業大学客員教授、東洋大学非常勤講師。内閣府「パーソナルサポートサービス検討委員会」委員、東京都「東京都生涯学習審議会」委員等を歴任。

Lee, Hongjik (ホンジック・リー) 江南大学社会福祉学部准教授、韓国

韓国、延世大学にて福祉学学士を取得。その後米国、ケース・ウェスタン・リザーブ大学にてソーシャルアドミニストレーション学で修士号、コロンビア大学で社会政策、計画、政策分析分野にて博士号を修める。現在、韓国、江南大学社会福祉学部にて准教授。研究・出版分野は労働市場政策、反貧困政策、高齢化社会政策。コリアン・アカデミー・オブ・ソーシャル・ポリシーをはじめとし多数の評議会や審議会にてアドバイザーを務めている。



尾畑留美子（おばた るみこ） 尾畑酒造専務取締役



新潟県佐渡市、「真野鶴」醸造元尾畑酒造の二女として生まれる。慶應義塾大学法学部卒業。日本ヘラルド映画（現・角川映画）勤務を経て1995年5代目蔵元に。佐渡から日本酒と故郷の魅力を世界に発信すべく活動。今年5月からは廃校を仕込み蔵として再生させた「学校蔵プロジェクト」に取り組んでいる。日本酒造組合中央会需要開発委員、農水省・食料・農業・農村政策審議会臨時委員、総務省・地域力創造アドバイザー等務める。二女の母。

Pohl, Martin（マルティン・ポール） 筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授

ドイツ、マンハイム大学とフランス、ポルドー大学にて経営学、英語学、フランス語学を修める。1996年～2006年まで、コンサルタント。2006年～2010年駐日ドイツ大使館にて、参事官として労働、保険分野にて広報を担当。2010年より現職。教職以外では、ハーモニック・ドライブ・システムズ社の監査役メンバー。過去には、Lafarge Roofing 社、日本カール・デューズベルク協会監査役会メンバーも務めていた。研究・出版分野は、労働、ヘルスマネジメント、政治、人材マネジメント、マネジメント倫理。



Spermann, Alexander（アレキサンダー・シュペアーマン） 労働の未来研究所労働政策部長、ドイツ



パッサウ大学、フライブルク大学にて経済学を学ぶ。1992年フライブルク大学にて博士号取得。1999年同大学にて教授資格取得。1999年～2002年コンサルティング会社経営。2002年～2007年には、マンハイムの欧州経済研究センターにて労働市場・人材・社会政策部部长。2007年～2014年、ランスタッド・ドイツ社にてダイレクター職。労働未来研究所では、2000年にリサーチ・フェロー、2011年にはポリシー・フェローを務める。1999年よりフライブルク大学にて准教授も務めている。

Zibrowius, Michael（ミヒャエル・ジブロヴィウス）、ケルン経済研究所 エコノミスト、ドイツ

2009年、エアランゲン＝ニュルンベルク大学にて国際経済学ディプロマ取得。在学中、米国ウエイン州立大学に1年間留学、2007年に経済学修士号修得。その後、2013年に、Bavarian Graduate Program in Economics (BGPE)の奨学生として、経済学博士号を取得。2012年8月から12月には、米国カリフォルニア大学バークレー校労働経済学センターに、客員学生研究員として滞在。2014年より、職業教育・訓練の専門家としてケルン経済研究所に入所。研究分野は、実証的労働経済学と世代間比較。

